

鎮西学院大学DX推進5か年計画

現状・課題	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
<p>・WITH COVID-19 求められる学校機能 つながり保障 健康保障 学びの保障</p> <p>↓</p> <p>ICTは文房具ではなく スキューバダイビングの「ボンベ」</p> <p>↓</p> <p>デジタルトランスフォーメーション(DX)は「学びの継続」に必須</p> <p>↓</p> <p>・レガシーシステムからの脱却 ✕教育プログラムの複雑化・老朽化・ブラックボックス化 ✕AI・RPA加速化時代の人材ニーズへの未対応</p> <p>・デジタルデバイドの克服 ✕通信量の制約によりリアルタイム・オンライン授業が困難 ✕教員間/学生間のデジタルデバイスが大学間格差として露呈し選ばれない大学へ</p> <p>・学び方・授業の革新:ブレンドラーニングという戦略 対面+オンライン+反転授業が標準モデルへ? → ✕教員の業務の増大</p>	<p>学び続けるために学びを革新する</p>					<p>「いつでも・どこでも・何度でも」 キャンパス/学外フィールド/自宅での学修環境の整備・拡大と同時に、学生・地域とのあらたなエンゲージメント形成</p>
	<p>キャンパスの革新:GIGAキャンパス</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ G-Suite for Educaiton活用 ➢ 学生用PC端末整備 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 基幹ネットワーク整備(キャンパス内LAN再整備) 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学生ノートPC/タブレット端末必携化 			
	<p>学びの革新:ブレンディッドラーニングの全学導入</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ オンライン授業ツール・ソフト整備 ➢ WEBカメラ・マイク等の機器/G-Suite・Zoom等 	<p>ブレンディッドラーニングの戦略的展開</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ヘルプデスク開設・専門人材配置 	<p>Society5.0/社会のDX化を見据えた基礎力としてのICTスキル学修プログラム</p>				
		<p>ICTを最大限活用した既存プログラムの見直し</p>				
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ Community Service Learning(特色ある地域課題解決型プロジェクト学習) 				
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外研修プログラム・単位互換留学プログラム 				
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 専門職養成(福祉・教職)プログラム 				
	<p>大学の革新:アジャイル型カリキュラムマネジメント体制の強化と人材育成</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 組織/個々の教職員のデジタルデバイス解消FD・SDプログラムの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ DXと学びの革新をけん引するマネジメント人材の育成 				
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学びの革新に対応した教職員の業務・役割分担の見直し 				
		<ul style="list-style-type: none"> ➢ 学びの革新に対応した教授者の学び直しを促進 				
						<p>学びの革新 ○学修方法の革新:知識提供はオンライン、コンピテンシー(対人スキル、課題解決力等)養成は教室・フィールドで ○カリキュラムの革新</p>
						<p>カリキュラムマネジメント体制の確立とFDの強化</p>

「2025年の壁」をよじ登り乗り越えるキャンパス整備

2020(令和2)年度	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
学びの革新を続けることで学びを保証する					「いつでも・どこでも・何度でも」 キャンパス/学外フィールド/自宅での学修環境の整備・拡大
キャンパスの革新:GIGAキャンパス					
<ul style="list-style-type: none">➢ G-Suite for Educaiton活用➢ 学生用PC端末整備	<ul style="list-style-type: none">➢ 基幹ネットワーク整備(ギガビット対応キャンパス内LAN再整備)	<ul style="list-style-type: none">➢ 学生ノートPC/タブレット端末必携化➢ 授業動画アーカイブ集積/反転・ブレンディッド学修の常態化			学びの革新 ○知識提供はオンライン、コンピテンシー養成は教室・フィールドで ○自律的・主体的学習者の養成 ○地域・世界・企業等、他者との新たなエンゲージメントを形成する力の養成
➢ AI×就学・修学支援ログ→ 教務事務・学生相談業務のDX化					
学びの革新:学生・キャンパス・地域・世界・産業を「つなげる」「つながる」					カリキュラムマネジメント体制の確立とFDの強化 ○AIによる学習者中心のTeaching支援 ○大学プラットフォーム内で教育コンテンツの共有と質保証の仕組みの構築 ○
<ul style="list-style-type: none">➢ オンライン授業ツール・ソフト整備➢ WEBカメラ・マイク等の機器/G-Suite・Zoom等	eポートフォリオ・eシラバス・WEBミーティング等の学修ログをLMSで集積、AIにより学生個々の進路実現に向けた最適化した総合的修学支援を実現				
<ul style="list-style-type: none">➢ ヘルプデスク開設・専門人材配置	コアカリキュラムとしてDX対応人材養成プログラムを開設 ➢ Community Service Learning(農商工連携・観光・福祉等、特色ある地域課題解決型プロジェクト学習) ➢ 海外協定大学間連携を中心としたグローバル・オンラインプログラム ➢ 職業統合型・専門職養成プログラム				
学生間の「相互扶助」「協働の経験」「信頼関係」を保証する仕組みづくり					
大学の革新:アジャイル型カリキュラムマネジメント体制の強化と人材育成					
<ul style="list-style-type: none">➢ 組織/個々の教職員のデジタルディバイド解消FD・SDプログラムの実施	➢ AI×Teaching Portfoliolによる学習者中心のTeaching支援				
➢ AI×修学支援ログ×学修目標達成度(成績評価・外部テスト等)によるプログラム評価・検証・改善体制の確立					
➢ QSP(九州西部地区大学・短期大学連合 産学官連携プラットフォーム)事業のDX対応					

いつでも、どこでも、何度でもー学びの革新の基盤となるGIGAキャンパスの整備

- 学びのDX化（教育×破壊的イノベーション）への対応には基盤となる基幹ネットワークの整備が大前提
 - 2000年代初頭より学内LAN・フリーWifi整備するも老朽化・迷宮化
 - ギガビット対応キャンパス内LAN再整備が急務（学内LAN・wifiアクセスポイントの設計見直し・効率的配置によりギガビット対応へ
- オンライン授業の制作環境・アーカイブ化整備
 - 動画収録用簡易スタジオ設備整備
 - 授業データのクラウドアーカイブ整備
 - インストラクショナルデザイン理論に基づく、オンライン・コンテンツ制作のガイドライン策定・運用
- 教務・修学支援業務のDX化ーさらにめんどろみのよい大学へー
 - AIによるLMS、eポートフォリオ等修学支援ログの集積・解析と履修・就学・修学支援CHAT BOTの開発

DX5か年計画①GIGAキャンパス

- キャンパス全域に学内LAN・Wifi設備を整備済みだが、回線が細く、複数科目によるリアルタイム配信授業は困難が予想される。
 - キャンパスの特殊形状により既存配管での再整備は不可能。新たに 光回線の敷設工事が必要
 - 2022年度までに光ケーブル複数科目による同時リアルタイム配信を可能に
- 学生の自宅PC保有率は77%。110人分のPC端末が必要
 - 既存の貸出端末は30台。新たに95人分の可搬式PC端末を、文科省補助金を活用し購入。空き教室での利用貸出、第二波・第三波の場合の学外貸出に供する。
- 2021年度入学生以降、学生の可搬式PC端末必携化。1年次科目より、Google Classroom等のクラウドアプリサービスによる学修管理を前提としたカリキュラム編成を実施
- 以上の措置により、「いつでも、どこでも、何度でも」の学びの環境を整備するとともに、学生・地域との新たなエンゲージメント形成の学風を確立する。

DX5か年計画②ブレンディッドラーニングの全学導入

- 2020年度を「ブレンディッドラーニング元年」とし、Google Classroom活用を核とした「対面授業＋オンライン授業」の全学的導入を始める。
→ Zoom等の有料サービスの年間ライセンス購入、年間を通じたオンライン授業作成支援FDプログラムの計画的実施
※4/17 Google Classroom説明会実施済み
- カリキュラム改革：2023年度入学生より適用
 - 2020年度中にSociety5.0/社会のDX化に対応するカリキュラムの見直し。併せてWITH COVID-19でのキャンパス外学修（地域活動、海外研修、専門職実習等）の在り方を模索。
 - 教授法・学修法の戦略的な展開：「知識習得はオンラインで、コンピテンシー（対人スキル、課題解決力等）養成は対面及び地域活動で」
- 語学情報センターに常駐の専門人材を配置。オンライン授業ヘルプデスクとして、学生・教員の技術的支援を実施。相談内容を集約し、FDのプログラミング、カリキュラムマネジメントのエビデンスとして活用
 - ※4月当初より専門人材を配置済み

DX5か年計画③アジャイル型カリキュラムマネジメント体制の強化と人材育成

- アジャイルとは・・・トライアル／エラーを短期間に高速で繰り返しながら改良を続ける開発手法
- WITH/AFTER コロナ禍での先行き不透明のなか、大学のミッション遂行のため、**臨機応変に、組織的に**、課題を解決する体制が必要
- 中教審「**教学マネジメント指針**」を参考にしつつ、危機のリーダーシップを発揮できるマネジメント人材の養成と組織体制の確立
 - 特に教務部門の体制、必要な知識・能力を見直し、計画的に養成
- カリキュラムのスリム化・教職員の業務・役割分担の見直し
- 「**学び方改革**」に対応した新たな教授法に関する教員の学び直しを促進。
 - QSP（九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム）他と連携した体系的・継続的なFDプログラムを企画・運営